

# 近頃の 山の木で 家をつくる 運動

緑の列島ネットワーク

今号のトピックス

page

■ 事務局からの報告	1
■ 特集「現代の名工」	2
■ 読み物のページ「森の文化 木の文化」	2
■ 読み切りトピックス「知っていますか」	3
■ 会員紹介「人」	4
■ 活動報告	5
■ 事務局からのお知らせ	8

事務局からの報告

■2003年度第4回通常総会が開催されました

2004年9月20日に名古屋工業大学2号館1階 F1講義室（名古屋市昭和区御器所町）にて、大河原章吉理事を議長として2003年度第4回通常総会が開催され以下の第1号議案から第5号議案まで、全会一致で議案通りに議決されました。

第1号議案

2003年度事業報告（報告者：光島善正 理事）

第2号議案

2003年度会計決算報告（報告者：大江忍 理事）

第3号議案

2003年度会計監査報告（報告者：秋野卓生 監事）

第4号議案

2004年度事業計画案（報告者：光島善正 理事）

第5号議案

2004年度会計予算案（報告者：大江忍 理事）

■2003年度第6回理事会が開催されました

2003年度第4回通常総会に先立ち、2003年度第6回の理事会が、同じく名古屋工業大学にて開催されました。

松井前理事（関東ブロック担当理事）、上山前理事（九州ブロック担当理事）の辞任に伴い、あらたな地域ブロック担当理事が決まりました。関東ブロックは山邊豊彦理事、大河原章吉理事が、九州ブロックは、正式の新担当理事が決定するまでの暫定的措置として和田善行理事が担当することとなりました。

会員からの各種問い合わせについても以下のような検討もなされました。

1.看板へのロゴマークの使用について：

ロゴマークは基本的には、法人が利用するためのもので、会員が独自に作成・利用してよいこととすると歯止めがなくなる懸念があるとの結論に達し、ロゴマークの転載などは禁止とさせていただくことになりました。ただしその代わりに、ロゴを印刷し

た大型シール等を作成して看板等に貼って利用していただくなど、実質的な運動普及のための方策を今後検討していきます。

2.名刺に「緑の列島ネットワーク」の名称を利用することについて：

こちらも同様に、NPO法人の本道に則り、営業ツールとしての使用は禁止し、当法人の会員であることは会員証の提示でお願いすることとしました。会員資格未更新の会員については、2004年10月末を以てホームページ上の会員名公開リストより削除することも決定されました。

■メール版ニュースレター配信が開始されました

11月より、メールアドレスを登録された会員の皆様へメール版ニュースレターの配信を開始しました。【緑の列島ネットワーク】Mail News Letterの名称で会員相互のコミュニケーションの場を増やし、情報の共有ができるように、最新の情報をお届けいたします。

■会員専用の掲示板を作成しました

会員相互の情報交換や交流などに活用していただくため、会員専用の掲示板を作りました。

(<http://www.green-arch.or.jp/treebbs2/0/index.html>)

アクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要になります。ユーザー名:midori、パスワード:retouを入力してください。投稿内容が不適切と判断した場合は事務局で削除することもあります。「今後どのような活動を展開していくべきか」の議論や、「こんな活動をしたいので仲間を募りたい」など、会員の皆さんの活発な提案や交流を支援します。

## 『讃岐の舎づくり倶楽部』

「香川仲南桧を大黒柱に」：  
香川県は四国の他の3県に比べると森林資源が著しく乏しく、林業専業で生計を立てている人はほとんどいないのが現状です。クラブメンバーの豊田氏はそんな数少ない林業家のひとりです。「讃岐の舎（いえ）づくり倶楽部」では豊田さんの山を中心に毎年伐採ツアーを開催しています。香川県は（今年を除いては）年間降雨量が少なく土壌が余り肥沃でないなどの理由で杉よりも檜の山が多いのが特徴です。豊田さんの山も9割がヒノキ、1割がスギという構成になっています。木材出荷量のことや流通、コストなどの理由で、すべてを県産材でまかなう家づくりは香川の場合困難な状況にあります。私達はできるだけ近くの山の木をということで主に高知の杉を中心にした家づくりを推奨しています。そして、大黒柱を地元香川の檜や杉を使って建てようということで、伐採ツアーに建て主の家族を同伴して、目の前で大黒柱を伐り倒すイベントを毎年秋に開催しています。今年は和菓子屋さんの店舗に使う檜の大黒柱を、店主のご家族の見守る前で伐採しました。「国産材、四国の木、そして香川の木が良い」少しづつでもそう思ってもらえる人達が増えていく様、小さな倶楽部の小さな活動ではありますが継続していきたいと思っています。クラブメンバーには家具屋さん、建具屋さんもありますので今後は香川仲南桧の間伐材を利用した家具や建具の製作、小径木丸太を利用したエクステリアの材料などの活用を検討していく予定です。

「近くの山の木で・・・」思うこと：  
国産材を使った家づくりの運動は、過去にいくつか生まれ、いつの間にか自然消滅の様に消えていったものが少なくない様に思います。詳しいことはわかりませんが、おそらくそれは一部の専門家達の領域を越えることなく一般の人達に拡がらなかったことが大きな要因だと思います。「緑の列島ネットワーク」はその意味で発足当初から、これまでの国産材の家づくり運動とは一線を画するものだと私は思っています。それは「千人宣言」がつくり手をこえた多くの人達から支持されたことにも現れています。「自然乾燥」と「人工乾燥」、「伝統構法」と「プレカット」・・・ネットワーク内部でも様々な議論があるようですが、私達はこちらも柔軟に許容したいと考えています。自然乾燥、大工の手刻みによる伝統構法を一つの理想におきながらも、人工乾燥やプレカット、集成材や合板、外材までも否定しないスタンスをとっています。ただし、それらの材質や、産地、接着剤の種類、人工乾燥の種類にはこだわりを持ちながら・・・私達の目指す方向は「伝統構法を守る会」ではなくて、それ以前に良い家、自然な家、快適な家を提供することにあると思っています。アカデミックな議論はややもすると専門家だけのごく小さな世界の近視眼的視点に陥る危険性があるように思います。過去の運動が自然消滅していったのもそのあたりのことに原因があったのではない

でしょうか。この運動を一部の人達の特殊解に終わらせてはいけない、もっと家づくりの一般解にまで高めなければならない、もっと言うと家づくりだけでなく暮らし方の価値観や社会観にまで拡げていきたいと思うのです。今、木の家づくりに関する一般の人達の関心は確実に高まっています。「地産地消」「スローライフ」など、これまでの社会システムの在り方そのものに対する反省や切り捨ててきたものの見直しの価値観が確実に芽生えているという社会的な背景があります。この運動は家づくりの関係者だけのものではなく、そうした社会的な背景をバックボーンにもっと拡がっていくべき使命を担っている様に思うのです。私達の倶楽部もそんな大きな流れの一つでありたいと願っています。「緑の列島ネットワーク」にはそうした幅広い情報発信の場であると共に、もっと拡がっていくべき社会的な役割を期待したいと思っています。

2004.11.19

讃岐の舎づくり倶楽部 クラブ代表 菅 徹夫

菅 徹夫さんの提案に興味や、質問、またはご協力頂ける方は事務局までご連絡ください。

